

## 見直しの基本的考え方

- 鉄道・運輸機構の業務の意義・内容に照らして不断の国民サービスの向上等業務の質の向上に努めつつ、「独立行政法人の事務・事業の見直しの基本方針」(平成22年12月7日閣議決定)等に沿った事務・事業の効率化等を実施。

「独立行政法人の事務・事業の見直しの基本方針」等を受けた主な見直し状況は以下のとおり。

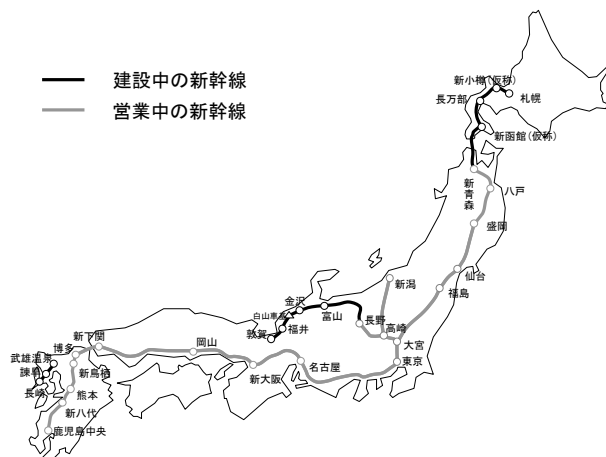
- ・ 特例業務勘定の利益剰余金のうち1.2兆円を国庫納付。(平成23年度)
- ・ 鉄道助成業務において、補助金交付業務の一部を国へ移管。(平成23年度)
- ・ 高度船舶技術開発等業務において、利子補給及び債務保証業務を終了。(平成22年度)
- ・ 基礎的研究業務は廃止し、真に必要なものを国で実施。(平成24年度終了)

## 組織の見直しに対する考え方

- 各年度の事業内容及び事業規模に対応した合理的、機動的な組織の編成、運営の効率化等を図るため、本社及び地方機関の組織の新設・改廃を機動的かつ弾力的に行い、着実に実施。

## 鉄道建設等業務

- ・ 本年6月に着工が認められた区間を加えた整備新幹線の建設を推進。
- ・ 都市鉄道については、①従来進めてきた民鉄線事業は建設中の2線をもって終了、②都市鉄道利便増進事業等を推進。
- ・ 品質及び工事の安全確保、総工事費の管理、工事実施に関する情報提供及び技術開発への取組を実施。
- ・ これまで培ってきた技術力を活用して、上記業務の実施に支障のない範囲で、国が進める我が国鉄道システムの海外展開に向けた取り組み等を支援。



新幹線鉄道網



相鉄・JR直通線及び相鉄・東急直通線の路線概要図

### 諸外国における高速鉄道計画への技術協力

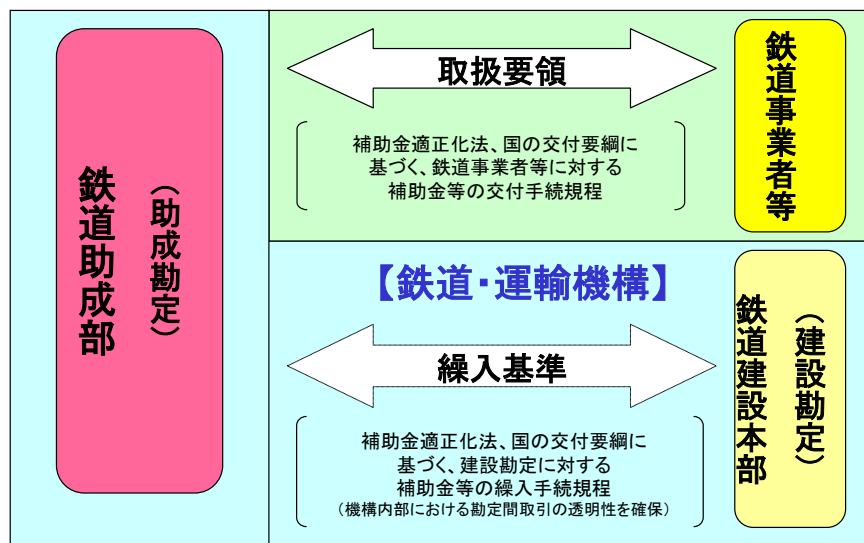
- ① **カリフォルニア**
  - ・ カリフォルニア州高速鉄道局(CHSRA)との情報・意見交換及び技術協力等(専門家2名派遣)
- ② **ベトナム**
  - ・ JICA主催の国内支援委員会・ワーキンググループへの参加
- ③ **ブラジル**
  - ・ 新入札モデルに対するブラジル政府への技術的助言(専門家2名派遣)
- ④ **インド**
  - ・ 路線・停車場計画、電化計画の策定に係る技術協力(専門家3名派遣)
- ⑤ **南アフリカ**
  - ・ 路線選定の策定に係る技術協力、報告会への参加(専門家2名派遣)

事例；平成23年度における実績

# 鉄道・運輸機構の見直し当初案について

## 鉄道助成業務

- ・ 鉄道事業者等に対する円滑かつ適正な助成を実施。
- ・ 既設新幹線の譲渡管理及び債務処理を着実に実施。
- ・ 第三者機関の助言の業務運営への反映、審査ノウハウの継承・職員のスキルアップ等により、業務遂行に係る効率性を向上。

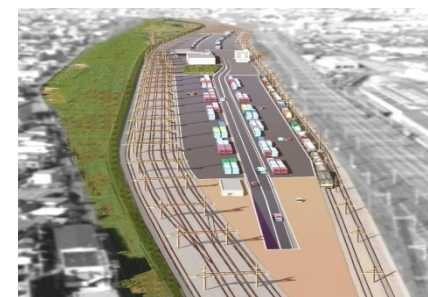


### 鉄道助成業務の審査等に関する第三者委員会名簿

|     |        |             |
|-----|--------|-------------|
| 委員長 | 杉山 雅洋  | 早稲田大学名誉教授   |
| 委員  | 二村 真理子 | 東京女子大学准教授   |
| 委員  | 加藤 達也  | あらた監査法人代表社員 |
| 委員  | 金子 雄一郎 | 日本大学准教授     |

## 特例業務（国鉄清算業務）

- ・ 残された土地の処分については、適切かつ早期の処分を図る。



梅田駅(北)・吹田信号場プロジェクト

(左; 梅田貨物駅 右; 吹田貨物ターミナル駅(仮称)完成予想図)

- ・ JR三島・貨物会社の経営自立を図るため、特例業務勘定における利益剰余金等の取扱いに関する関係三大臣合意及び債務等処理法の規定に基づく支援措置等を実施。

### 【JR三島・貨物会社の設備投資に対する支援（無利子貸付・助成金）】

事例1; 鉄道車両の老朽更新

事例2; 軌道強化



【老朽化車両】

【電車新製】

【木マクラギのPCマクラギ化】

# 鉄道・運輸機構の見直し当初案について

## 共有船舶建造業務

- 重点集中改革期間(平成17年度から平成21年度)における取組の成果等を踏まえ、「内航海運効率化のための鉄道建設・運輸施設整備支援機構船舶勘定見直し方針」(平成16年12月策定)に基づく機構の取組を継続し更なる財務改善に努力。
- 船舶の共有建造業務における政策誘導機能を強化する観点から、SESや16%CO2排出削減船といった高度な環境性能を有する船舶の建造等に対してより重点的な支援を実施するなど、適宜適切に事業の見直しを実施。

事例1；SES建造実績と今後の建造予定（平成24年9月現在）

| 推進方式       | 建造実績（21隻）  | 建造予定（2隻）    |
|------------|--|-------------|
| ラインシャフト    | 一般貨物船 1隻、油タンカー 2隻<br>ケミカルタンカー 7隻<br>セメント船 4隻、LPG船 1隻 | ケミカルタンカー 1隻 |
| ポッド        | セメント船 1隻、旅客船 2隻                                      | セメント船 1隻    |
| タンデムハイブリッド | 一般貨物船 1隻、セメント船 1隻                                    |             |
| 2軸         | ケミカルタンカー 1隻  |             |

事例2；新形式2軸型SES第1番船「新進丸」

⇒ 平成23年度建造開始、平成24年度竣工



新形式2軸型SES



新進丸

## 高度船舶技術開発業務等

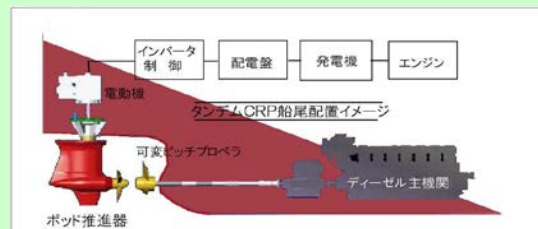
- 内航船舶の効率的な運航に資することに配慮しつつ、環境負荷低減等の政策目的に沿ってテーマを募集し、実用化された場合の波及効果を踏まえた助成を実施。

事例；タンデム型CRPシステム

(CRP=Contra Rotating Propellerの略。二重反転プロペラ。)

⇒「興山丸」(平成22年度建造開始及び竣工)に搭載

- 二重反転効果によりエネルギーロスを減らし、高い推進効率を実現。
- 360°回転可能なポッド推進器により、狭い港湾でも容易な操船を実現。
- 気象・海象の影響による減速が少ない。



新技術の概要



興山丸

- 対象事業の選考・評価等に際し、客観性、透明性を確保するため、対象事業の事業計画及び実施結果について外部有識者から評価を受けるとともに、助成先等を公表。

### 高度船舶技術審査委員会名簿

|     |       |                |
|-----|-------|----------------|
| 委員長 | 大坪 英臣 | 東京大学名誉教授       |
| 委員  | 畔津 昭彦 | 東海大学教授         |
| 委員  | 今津 隼馬 | 東京海洋大学名誉教授     |
| 委員  | 木船 弘康 | 東京海洋大学大学院准教授   |
| 委員  | 鈴木 和夫 | 横浜国立大学大学院教授 p4 |